

飯島訪朝と北朝鮮瀬戸際外交の終着点

「コリア・レポート」編集長 辺 真一
ビヨン ジン イル

- *アタツシユケース持参の謎
- *朝鮮総連本部ビル競売の行方
- *安否不明者の再調査入りも
- *拉致は間違いない松本京子さん
- *もう二人の所在判明の可能性
- *いちばん難しい田口八重子さん
- *戦術を転換した北朝鮮
- *すべての引き金だった人工衛星
- *何の発射かわからない国連決議
- *思い切った外交の好機



浅野 お待たせしました。（拍手）ちよつと遅くなりましたけれども、つい先ほどまで辺さんはテレビ局で熱弁を振るっておられたので、今朝、テレビで見たとよという会員の方も何人かおられました。急いで駆け付けてくださったわけですね。で、お昼も抜きでお話いただくことになりました。

とてもいいタイミングですね。飯島さんの訪朝もありました。六カ国協議がどうなっていくのか、拉致問題を含めて、日本が独自の北朝鮮外交を展開する絶好の機会なのかどうか。いつも辺さんの話は楽しみです。今日はいぢだんと知られざる情報を伺えるのではないかと思います。では、早速始めさせていただきます。（拍手）

辺 遅れて申し訳ありません。なかなかテレビ局に放していただけなくて、担当の人は、こちらが始まる12時40分にはきっちり間に合うようにしますと言いながら結局、4〜5分遅れてしまい、たいへん失礼しました。

まず飯島勲参与の訪朝ですが、私は最初からこれは安倍さんが送った特使であると感じました。特使である以上、なんらかのメッセージは伝達しているだろう。口頭によるメッセージであれ、文書であれ、それが本来、特使の役目ですね。特使というのは特別な任務を仰せつかる使者ですから。でなければ北朝鮮も、国家元首クラスの最高人民会議常任委員長がわざわざ接見に応じることはないはず。

二つ目は、秘密裏に飯島さんが北朝鮮に入る